

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570400263		
法人名	社会福祉法人ほのぼの会		
事業所名	グループホーム花ごよみ		
所在地	滋賀県近江八幡市上田町1315-1		
自己評価作成日	平成24年9月3日	評価結果市町村受理日	平成24年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成24年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたらしく生きる」を理念としております。それぞれがその人らしく過ごしていただくためには？を考えながら日々寄り添っています。畑では野菜を育てていますが、毎日水やりをする方、収穫する方、漬物にする方、それぞれが出来ることを見つけて最後は一緒に味わうという楽しみを感じて頂けるよう支援しています。また、年賀状を書いたり、鏡餅やおせち料理を作ったりと季節を感じながら、昔からの習慣、風習を大事に暮らしていただけるよう支援しています。地域の方からはお野菜をいただいたり、老人体操教室にお誘いいただいたり、地域のお寺の住職様の訪問を受けるなどいろいろな面でご支援をいただき、たいへんありがたく思っております。医療面においては、以前からの主治医の定期的な往診に加え、今年の4月より医療連携を結び、毎週看護師の訪問を受けております。訪問看護を受けることで利用者様の健康管理につながり、家族様も安心され、また職員も心強く感じております。日頃の様子は、DVDに記録し家族様にお届けしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がいつまでも自分らしく生活するために、職員は利用者の持っている特技、優れた能力が何であるかを把握することに努め、利用者それぞれが自分の特技を發揮して達成感を持ちながら生活し続ける様支援している。中には全国規模の書道展で優秀賞を得た利用者がある。これらのことは利用者間の会話の中にも認められ、明るい雰囲気醸し出している。利用者のかかりつけ医の定期往診により、利用者の日常の健康管理に努めると共に、利用者毎の排泄パターンを把握して適切な支援を行い、全員が布パンツで生活することを基本にしていることも特筆できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしく生きる」の理念のもと、個性を尊重しています。また穏やかにくつろげる環境作り、人と人とのつながりを大切に馴染みの人間関係作りに努めています。	利用者の個性と尊厳を守り、「ひととひとのつながりを大切にし、地域交流、馴染みの人間関係作りに努める」と謳い、これを実践することに努めている。日常折りにふれ、また課内会議で、管理者は理念に振り返り確認することを指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(観桜会、コスモス鑑賞会)に参加させていただいたり、当施設の納涼祭には地域の方を招待しています。又、近隣の方には新鮮な採りたて野菜をお届けいただいたりありがたい限りです。近くの住職様の法話も楽しみにされています。	運営推進会議構成員の支援で地域行事に招待されるとともに、事業所行事に地域住民を招待し日常交流に努めている。前年健康増進体操を地域老人会と共同実施したので、今年も継続発展出来る様企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の症状などお話し、参考にしていただいております。又、地域の中高生の体験学習も受け入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の行事、風習などの情報をいただいたり、施設内での問題を会議でとりあげ報告、相談をしています。	地域住民の参加も得て年6回開催した。夜間想定避難訓練に参加した運営推進会議構成員の提案で、車椅子操作の研修会を開くなど、有意義な提案を得て運営に反映させている。外部評価結果を開示している。	運営推進会議が、自己評価や外部評価の結果より作成した目標達成計画のモニター役を努めることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	花ごよみだよりや法人の広報誌をお届けし、どんな時でも相談させていただいております。また、毎月月の介護相談員の訪問を受け、利用者様や職員とも情報交換をいただいております。	介護相談員を受け入れ、利用者からの相談を受けると共に、職員は介護手法について相談し、介護相談員の報告書を活用している。市の保険窓口職員には保険制度上の相談を指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間以外はしていません。日中、外へ出られる際は可能な限り付き添い、納得されるまで寄り添っております。	全ての職員は、法人が実施する身体拘束をしないケアの研修を毎年受講している。玄関は夜間のみ保安維持の為施錠している。無断外出や徘徊があった時は、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者については、研修を受講済み。一般職員にも研修報告を行っております。未熟なケアが虐待につながらないように職員同士声を掛け合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者については、研修を受講済み。一般職員にも研修報告を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと説明を行い、日ごろから気軽にお話しただけのよう心がけております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を作り、目安箱を玄関に設置しております。日頃から、何でも話せる関係を心がけ、どんな小さなことでも受け止めるようにしています。	年5回開催する家族会は、事業所が全面的に支援協力をしている。家族会での提案で、『いきいき百才体操』を始めた他、音楽療法の採用、ボランティア団体との触れ合いの希望も実施した。苦情相談は外部3機関にも出来ることを明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う課内会議で意見を出せるようにしています。	毎月の全職員が参加する課内会議では、職員の気づきから発見する利用者個人の特有の能力を披露している。個室出入口扉は、夜間見守りや緊急時に備え外からも施錠・解錠ができる構造を提案し、採用した。階段やスロープの増設、テレビの設置が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの良さを見だし、役割や責任を持ってもらい、やりがいのある職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全員が受けています。外部研修も積極的に参加をするようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるグループホームとの連携を中心とし、ネットを介して情報交換ができるシステムを使用しています。グループホーム会議にも参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わり、不安になられている気持ちに寄り添い、ご家族とも連携をとり、早く安心して過ごしていただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごと、要望などを伺いながら、対話を通じてより良い信頼関係が築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様本人やご家族様の意見を十分に伺い、個別のケアにつながるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の経験や知識から教わることが多々あります。支えたり支えていただいたりの関係を築いております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、安心していただけることを第1とします。日頃から連絡を密にし気軽に来所できる場であるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親せきの方とのよい関係はその方のこれまでの人生の財産だと思います。途切れないよう手紙、電話などでも支援できるよう努めております。	友人、家族の来訪もあり、利用者の友人関係を具体的にフェースシートに記載して、来訪者には又来て貰えるようそれぞれの方に合う対応に努めている。利用者の多くが年賀状を作成し、住所確認して投函する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの落ち着ける居場所を配慮し、互いに支え合えるよう配慮をさせていただいております。昼食後には、昼食メニューや感じたことを日記にいただいています。「きょうは何日？何を食べた？」とみんなで思いだしながらかかれて、ほほえましい光景です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、可能な限り様子を見に伺い、お話し相手になれるよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々に会話の中で、把握に努めております。また、ご家族からの情報も大切にしています。	多くの項目を網羅した利用開始時の面談記録と、センター方式の一部を利用したフェースシートを準備し、活用している。利用者個人の得意とする能力の見出しに力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前までに、生活歴等情報を把握するようつとめております。また、入所後の日々の会話の中で伺うことも多々あります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態など、職員が把握し、ケア記録、申し送りなどで皆が共有できるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意向、主治医の意見を伺い、課内会議で話し合い介護計画を作成しています。	課内会議で全職員が参加して討議し、パソコンに入力したケース記録に基づき、毎日のモニタリング結果を総合してケアプランを作っている。状況の変化があるときは即時に、変化を認めない場合には3ヶ月毎の更新を行い、介護計画書には家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼのシルバースystemにて個別に記録し、情報を共有しております。必要に応じて会議でも取り上げてよりよいケアに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎回その方のニーズに対応することは難しいですが、可能な限り、「買いたいときに買いに行く」など、少しずつ対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の中高生の体験学習を受け入れていません。折り紙を教えたり、話し相手になったりと人生の先輩ぶりを発揮されることがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医の意向を伺い、希望通りにしています。眼科、歯科以外は定期的に往診に来て下さっています。	利用者の希望に沿い、かかりつけ医の継続受診と往診、提携医療機関の定期往診による日常の健康管理と、受診結果の共有を行っている。眼科と歯科は、家族が対応して受診している。投薬は職員が管理・支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より医療連携体制をとり、週1回訪問看護を受けております。24時間体制で相談もでき、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族様了解のもと、医療機関と情報を交換し、状況把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になられた場合については、よりよい方向に進めるようご家族様と話し合い、支援に取り組んでおります。	医療連携体制加算をとっている。重度化・終末期の対応方針は明文化し、入居契約時に、看取りをしないことも含めて本人、家族に説明し同意を得ている。利用開始と同時に特別養護老人ホームへの申し込みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え付け、消防署が実施している救急救命講習に参加しております。急変時には、訪問看護師に連絡し指示を仰ぎます。課内会議後に、ぬきうちで救急対応の訓練をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、法人全体で実施しています。	昼夜想定避難訓練を2回実施した。歩行補助車を使う利用者の避難時間を短縮するため、家族の同意を得て、利用者の部屋に車椅子を常備した。地域に住む運営推進会議構成員の参加が得られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は、できるだけ小さな声で声掛けするよう配慮しています。又、ご本人の意思を尊重するよう心がけています。	弁護士を迎えて個人情報の遵守を学び、業務日誌は、ケース記録、その他の項目は全て即時にパソコンに入力している。排泄時の衣類の汚れがあるときも、羞恥を感じさせない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様ひとりひとりにあったわかりやすい声かけを心がけ、自己決定できるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活ペースは決まっていますが、その中で自分なりのペースで生活していただけるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動散髪を利用し、女性らしく身だしなみに気を使えるよう配慮しています。今年は、ネイルに挑戦していただきました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けが得意な方、配膳できる方、片付けが得意な方、それぞれができることをやっていただいています。	法人本部調理センターの配食サービスを受けている。一皿の食物を食べると箸を置き食事を中断することを防ぐため、食器が空き次第次の食器に関心を移す工夫も取り入れている。職員も同じ食事を共にしている。職員の発案で、夕食、朝食作りを始める予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌に記録することにより、職員全員が把握しております。また、食事摂取が難しいときは、主治医指示のもと栄養剤で補給をするなどして対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助などひとりひとりにあった支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、見守り、介助等の方に合った支援を行っております。	全利用者は布パンツを基本に必要な場合はパッドを併用している。利用者の排泄パターンを正確に把握し、適確なトイレ誘導を行なって、自力でのトイレ排泄を実現している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製ヨーグルトやバナナジュースを利用しています。それでも困難な方については、主治医に相談のもと薬剤にて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴時間は基本的には決まっておりますが、その方の気持ちを優先しております。就寝前に希望される方には希望に沿って支援をしています。	週1回の全体の休浴日はあるが、全利用者は週間3回の入浴を行なっている。順番は利用者間の話し合いで決め、入浴時間帯は制限せず、就寝前入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度管理に配慮し、昼間も夜間も自由に快適に過ごしていただけるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員がおこなっています。説明書はいつでも見れるようにファイリングしております。変更時は職員全員が把握できるよう連絡帳に記載しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑で野菜を育て、収穫の喜びを感じていたり、家事をさりげなく分担して、満足していただけるよう心がけております。若かりし頃に流行った映画を録画し、みんなで懐かしみながら鑑賞することもあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回、希望に沿って戸外へ出ることには難しいのが現状です。が、可能な限り、戸外への散歩、近隣スーパーへの買い物、また、計画的に踊りの会、喫茶店、日帰り温泉など趣味に合った外出が叶うようご家族と連絡をとりながら行っております。	職員と同行して近隣のスーパーへの食材を中心とした買物に行っている。法人が運営する隣接施設への往来もある。季節毎の全員の外出には事業所の車で、時には公共のシャトルバスも利用し、多くの人々と触れ合いながら楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9名のうち2名は自己管理されております。買物へ行った際には、自分の欲しいものを購入され、他の方へのお土産も購入され、お互いに満足されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って支援しております。手書きの年賀状はとても喜ばれました。荷物が届いた時などは、直接お礼の電話ができるよう支援しています。また、日頃の様子を写真撮影し、誕生日にはDVDにしてご家族にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者様と一緒に作った季節季節の切り絵や貼り絵などの作品を飾っております。また、廊下からは野菜畑が見えるようになっております。	大きな天窓のある居間は明るく、台所から居間全体を見渡すことが出来る。和室もある。壁には、書道に長ける利用者の作品や、折り紙で作った季節感のある飾りを施している。個別の浴室、広いトイレは清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーに座られる方、職員のそばの椅子に座られる方、畑の見える廊下が好きな方など、それぞれの落ち着ける場所があり、お喋りしたり、ひとりの時間を満喫されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや置物など居室には馴染みの物をご自宅から持参されています。壁には、ご家族との写真や自分で作られた作品などを飾っています。	全居室はフローリング仕上げで、使い慣れたベッド、寝具、家具を持ち込み、壁面は、思い思いの装飾で個人の生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープなどが設置されております。また床はバリアフリーになっており、居室への移動もスムーズです。トイレがわからないくて不安になることがないように壁に張り紙をして案内しております。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	運営推進会議や納涼祭、地域行事を通じて地域の方との交流は年数回あるが、道で挨拶を交わすなどごく普通の日常の関わりが困難な環境である。	地域の寺に出向いたり、散歩途中道端でお喋りしたり、地域の方と普通に关われる環境づくりを考えていきたい。	気候の良い時期は、体調をみながらできるだけ屋外に出られるよう考える。	12ヶ月
2	35	夜間想定避難訓練を初めて実施した。3カ所ある避難口を使用した場合の避難後の誘導は誰がどうするのか？耳が聞こえにくい方、非常ベルが聞こえにくい居室の方の対応をどうするのか？	年2回の夜間訓練を継続し、問題点を改善していきたい。	次回の訓練を来年3月に行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。